

[2015年5月27日]

気温に関連した死亡のほとんどは暑さよりも寒さが原因

日本を含む世界13カ国約7,400万人の死亡データを解析

日本を含む世界13カ国における約7,400万人の死亡統計データの解析から、全死亡の7.7%が気温に関連していることが示された。また、そのほとんど（全体の7.3%）が低気温に起因した死亡で、高気温による死亡はわずか（同0.4%）であることも分かった。英・London School of Hygiene & Tropical MedicineのAntonio Gasparrini氏らが*Lancet*（2015年5月20日オンライン版）で報告した。この国際共同研究には、わが国から長崎大学熱帯医学研究所教授の橋爪真弘氏と筑波大学保健医療政策学教授の本田靖氏が参加。日本では気温に関連した死亡が全死亡の10%超を占め、13カ国中第3位だった。

気温に関連した死亡率低いのはタイ、ブラジル、スウェーデン、高いのは中国、イタリア、日本

Gasparrini氏らは、英国、オーストラリア、ブラジル、カナダ、中国、タイ、米国など冷帯から亜熱帯までさまざまな気候の13カ国384都市で1985～2012年に死亡した7,422万人の死亡者データを収集。最も低い死亡率が観察される気温（至適気温）を基準とし、それ以上を「高気温」、それ以下を「低気温」、さらに2.5パーセント以下を「極端な低気温」、97.5パーセント以上を「極端な高気温」に分類してさまざまな気温での死亡リスクを推定した。

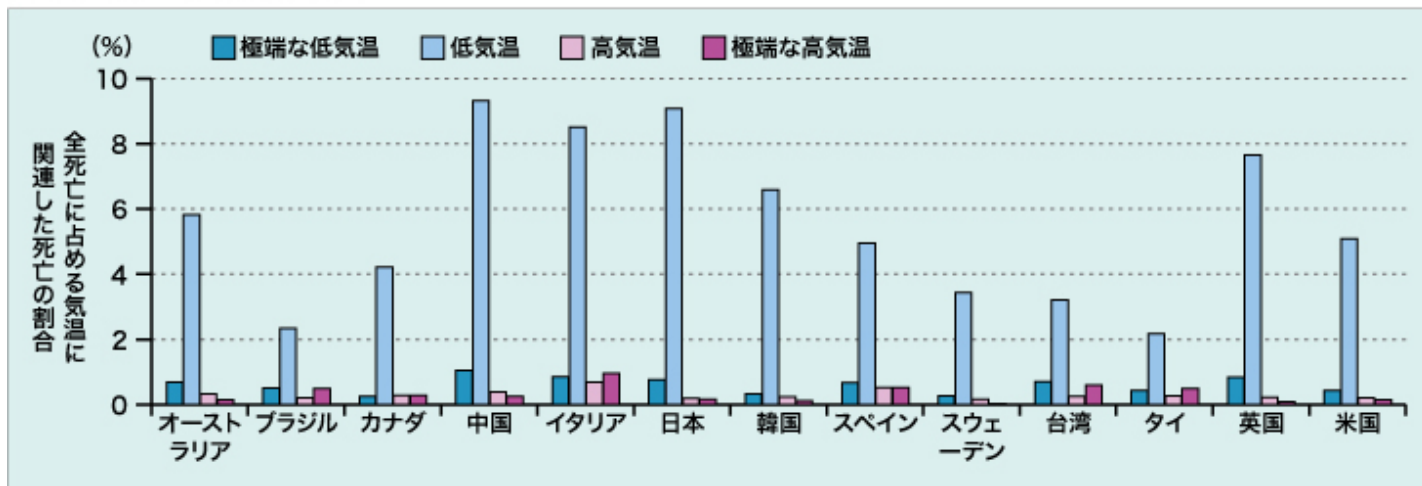
その結果、全死亡の7.7%（約572万人）が気温に関係した死亡と推定された。また、全死亡のうち気温に関連した死亡が占める割合を国ごとに見ると、タイ、ブラジル、スウェーデンでは3%前後だったが、中国では11.00%と最も高く、次いでイタリア（10.97%）、日本（10.12%）が続いた。

極端な低気温や高気温による影響はわずか

さらに、気温に関連した死亡のほとんどは低気温によるもので、全死亡の7.29%を占めたのに対し、高気温による死亡は全死亡の0.42%にとどまった。

この他、極端な高気温あるいは低気温による死亡は全体の1%未満を占めるにすぎず、そのほとんど（全体の6.66%）は極端な低気温には至らない寒さによる死亡であることも示された。国別のデータからは日本でもその傾向が示された（図）。

図．気温に起因した死亡の割合



(Lancet 2015年5月20日オンライン版)

Gasparrini氏は「これまで極端な気温が死因になると考えられ、特に熱波による影響が注目されてきた。しかし、過去最大規模の気温に関連した死亡のデータを解析した今回の研究からは、そのほとんどが猛暑には至らない暑さや寒さに起因していることが示された」と説明。熱波や猛暑対策に偏った各国の公衆衛生政策についても見直しが必要ではないかとコメントしている。

(岬りり子)

この記事に対するご意見・お問い合わせは、mt@medical-tribune.co.jp までお願いします。

関連記事

- ▶ 気候変動による健康への影響は深刻／気候変動サミットに合わせエビデンスをレビュー [2014年9月25日]
- ▶ 暑さによる死亡が2050年までに257%増加／英で温暖化による健康への影響を予測 [2014年2月28日]
- ▶ 気候変動による健康被害の増大に懸念、WHO [2013年11月21日]

[TOPページに戻る](#)